

# 杉戸町の未来へ向かって歩みだす

昨年を振り返りますと、わが国の経済は緩やかな回復が続いている中で、消費税率の10%への改定や、台風による甚大な被害が相次いだことなどが記憶に新しいところでございます。

また、新たな子育て支援施策として、幼保無償化が開始された一方で、厚生労働省の人口動態統計によりますと、2019年における1年間の出生数が90万人を下回るなど、大きな出来事や変化が多かった年でもありました。

そのような中、私は令和元年度においても、これまでと同様に職員と一丸となり、杉戸町の未来を切り開いていくため、毎日の小さな一歩を積み重ね続け、歩んできました。

特に、東武動物公園駅東口通り線の整備事業や、各小中学校の普通教室等へのエアコンの設置など、町の長年の懸案であった事業が進展したことは、大きな成果であったと考えております。

また、昨年は、台風19号の上陸により、杉戸町においても避難勧告の発令や避難所の開設など、これまで経験のない対応が必要となり、自然災害の発生に対する備えの重要性、難しさを改めて痛感し、この経験を次に生かしていくことが大切であると強く認識したところでございます。

私はこれまで、「住みごこち100%のまちづくり」の実現に向け、様々な取組を行ってきたところですが、急速に進む、少子高齢化や公共施設の老朽化など、今後の「まちづくり」には、様々な課題が山積しております。

また、この10年、社会は大きく変化し、行政がすべきこと、町民が求めるものは大きく変化、多様化しており、すべてのニーズを満たすことは非常に困難な状況となっております。

しかしながら、すべての町民が将来にわたり安心して暮らせる町を実現するために、職員だけでなく、町民の皆様も、ともに知恵を出し合い、一丸となって取り組んで

## 令和2年度 まちづくりの方針

2月13日(木)、杉戸町3月議会定例会の冒頭、古谷町長は、令和2年度の施政方針と予算編成方針を表明しました。

「施政方針」とは、これからの町政運営に向けて基本的な考え方と主な施策を示すものです。今回の特集では、施政方針の概要と、4月からの新年度で取り組む主な施策を紹介します。 ※町長が表明した左記方針は、文章を一部要約しています。

問合せ 政策財政課 政策行革担当 内線 209  
財政担当 内線272

### 第5次杉戸町総合振興計画

町の目指す将来像「手を取り合い 未来を築こう みんなでつくる 心豊かに暮らせるまち 杉戸 ～住みごこち100%のまちづくり～」の実現を図るための、6つの基本施策を柱にまちづくりを展開しています。

- 基本施策1 人をつなぎ、語らいのあるまち
- 基本施策2 みんなに優しく、思いやりのあるまち
- 基本施策3 人を育む、心豊かなまち
- 基本施策4 活力を育み、賑わいのあるまち
- 基本施策5 安心・安全で、やすらぎのあるまち
- 基本施策6 快適で、ゆとりのあるまち

#### この表紙が目印▶

平成28年度から令和2年度までの後期基本計画が掲載されています。ホームページにて閲覧できるほか、政策財政課窓口にて有償配布しています。(1部850円)



いく必要があると考えております。現在、町では、今後10年間、杉戸町が目指すビジョンを示す「第6次杉戸町総合振興計画」の策定に向け、様々な議論をしておりますが、令和2年度は、第5次杉戸町総合振興計画の最終年度となるため、現計画の目標達成を目指すしつつ、これからの10年間に、どのような「まちづくり」をしていくのかを考えていかなければなりません。

重要であると考えております。私は、様々な課題を乗り越え、未来の杉戸町に向うための一歩を踏み出していくために、4C(チェンジ、チャレンジ、コラボレーション、クリエーション)とともに、4D(ドリーム・ダイナミック・ディスカッション・ドウ)の基本姿勢をもって、人口減少をはじめとした様々な課題に果敢にチャレンジし、全力で町政運営に取り組んでまいり所存であります。

要か、10年後、20年後の未来に、杉戸町を「住んでいて良かった」と言えるまちにするためには、どうすればよいかを考え続け、みんなが一歩、前に進んでいくことが